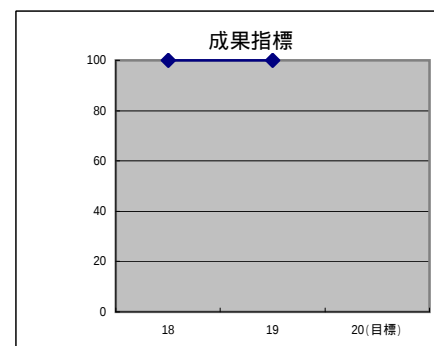
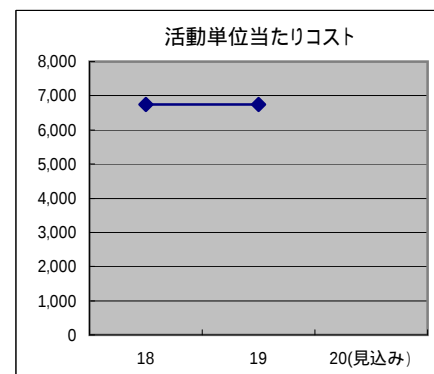


事務事業名		不登校支援協力員配置事業		予算科目	会計	1	一般会計
					款	10	教育費
					項	3	中学校費
					目	1	学校管理費
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	3	次代を担う子どもを育むまち	事業	64	不登校支援協力員配置	
	施策(節)	2	学校教育	作成部署			
	施策の方向	(1)	義務教育の充実	教育委員会事務局学校教育室学校教育課			
関連する計画等				連絡先	072 - 958 - 1111 内線 4162		
事業の目的							
対象(誰を・何を)							
市内不登校生							
意図(どういう状態にしたいのか)							
不登校児童・生徒の学校復帰を支援し、不登校児童・生徒数を減少させる。							
事業の内容							
- 不登校生徒の未然防止にむけた人間関係づくり。 - 不登校傾向生徒への個別支援をする。 H17.高鷲中・峰塚中に配置 H18.H19.峰塚中・高鷲南中に配置							
根拠法令等							
事業開始時期							
☐ 昭和 ☒ 平成 17 年 月開始 ☐ 明確にはわからない							
事業開始時からの状況変化							
市民や議会の要望							
実施手法							
☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()							
委託先							
☐ 外郭団体委託 名称 ☐ 民間委託							
委託内容							

区 分		18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (見込み)
事業費【1】 (千円)		2,260	2,260	
人件費【2】 (千円)		90	90	0
職員数	正規職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.05 人	0.05 人	0.00 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		2,350	2,350	0
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)	2,260	2,260	
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	90	90	0
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		18年度	19年度	20年度(目標)
協力員活動回数 回		348	348	
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】)		6,753 円	6,753 円	円
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		20 円	20 円	0 円



成果指標	指標名		指標設定の考え方		平成18年度	平成19年度	平成20年度
	支援率(%)	(式) 要支援児童・生徒数÷支援回数×100			目標	100	達成率(%)
					実績	100	100.0%
	(式)				目標		達成率(%)
					実績		

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	児童生徒の健やかな成長のため市の関与が必要
				○	○						

視点	分析のためのチェック点			分析・評価の説明		
	はい	いいえ	該当なし			
妥当性	市民ニーズが高い			☒	☐	☐
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない			☒	☐	☐
	社会情勢の変化に対応している			☒	☐	☐
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない			☒	☐	☐
	国・府の事業と重複していない			☒	☐	☐
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい			☒	☐	☐
	緊急性が認められる			☒	☐	☐
効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)			☒	☐	☐
	受益者負担の割合は適当である			☐	☐	☒
	人員を削減する余地がない			☒	☐	☐
	事業費を削減する余地がない			☒	☐	☐
	簡略化できる方法や手段がない			☒	☐	☐
	市の他事業と重複していない			☐	☐	☒
	民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない			☒	☐	☐
有効性	上位の施策(目的)が明確である			☒	☐	☐
	上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である			☒	☐	☐
	成果を向上させる余地がない			☒	☐	☐
	市民の視点にたってサービスが提供されている			☒	☐	☐
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している			☐	☐	☒
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている			☐	☐	☒
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している			☐	☐	☒
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている			☐	☐	☒
達成度	成果指標の目標値は適正である			☒	☐	☐
	成果指標の実績値は目標値以上である			☒	☐	☐
	成果指標は前年度より向上している			☒	☐	☐

担当 部局 評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☒ 完了	
	評価の理由	
	学級や集団への適応を果たした児童生徒も多い反面、課題を解決できない児童生徒もあり、今後とも指導を継続していく必要がある。今後はホッとスクール事業に引き継ぐ。	
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)	